

第4回 安全衛生対策項目の確認表及び標準見積書に関するWG議事要旨

日時：令和5年10月2日(月)14:00～15:15

場所：経済産業省別館 310 会議室(Web 併用)

【蒔苗大臣官房審議官挨拶】

- ・委員の皆様には、大変ご多忙中にもかかわらず、「第4回安全衛生対策項目の確認表及び標準見積書に関するWG」ご参加いただきましたこと、心より感謝申し上げます。
- ・本WGは昨年度3回開催し、安全衛生対策項目の確認表と戦略的広報について議論いただいた。8月には確認表の参考ひな型と説明書が完成し、建設業団体に対して確認表の作成・活用に関して依頼したところ。
- ・本日は、確認表の普及に向けた専門工事業団体の取り組み状況を共有するとともに、安全衛生経費を内訳明示する標準見積書の検討の進め方等についてご議論いただきたい。
- ・委員各位には、確認表及び標準見積書が、様々な建設工事の契約に際して活用され、建設工事従事者の安全確保に資するよう、引き続きご検討、ご協力を賜りたい。

【蟹澤座長】

- ・大変重要な新たな検討項目が掲げられている。よろしくお願ひしたい。

【事務局木下企画専門官】

- ・資料1について説明。

【細谷委員】

- ・8月に公表された確認表はどのような位置づけなのか。国交省の標準仕様書や管理指針にも記載されるのか。要請という位置づけなのか。

【事務局木下企画専門官】

- ・安全衛生対策項目の確認表は、見積条件提示時において安全衛生対策の実施分担・費用負担を確認するものである。すでに独自の様式を使用している企業はそのままでもよく、未実施のところは本ひな形を参考に作成・活用していただきたいと考えている。
- ・安全衛生項目が明確化していない現段階では、国の仕様書への記載は困難と考える。建設業団体に対しては依頼するものであり、強制するものではない。

【蟹澤座長】

- ・位置づけに関して話があったが、まずは業界で使用していただき、普及していくとで次のことが出来るようになると思われる。法定福利費の時と同様に、始めに

業界がしっかりと実施していくことが大事である。

- ・工種によって不要な項目があると思うが、参考ひな型を利用して見え消しにするなどして活用していただきたい。

【東尾委員】

- ・先行工種として検討している外部足場の確認表について、専門工事業の3団体での案が完成し、現在、建設業団体等への意見照会を行っているところである。当初、「外部足場」としていたが、「外部」に限定しない形で「足場」と名称を変更し検討している。

【事務局木下企画専門官】

- ・資料2について説明。

【蟹澤座長】

- ・まず始めにしっかりと作ってみる必要があると考える。安全衛生経費を率で計算する場合も、算出根拠を明らかにすることで、追加工事があった場合にも対応できるようにするという趣旨と考える。
- ・法定福利費と同様、安全衛生経費も複合単価で一式に含まれていたが、特に大事な法定福利費、労務費、安全衛生経費についてしっかりと明示し、元下間や発注者に対し見える化していくという趣旨である。
各団体が持ち帰り、次回までに意見を頂きたい。

【土屋委員】

- ・説明書に記載する安全衛生経費の算出方法として、「積み上げ方式」と「率計算方式」が併記されているが、最終的にどちらにするのか。あるいは併存させるか。

【事務局木下企画専門官】

- ・算出方法については、様々な方法があるので併記し、業界団体において工種の特徴により適切な方法を選択の上活用してもらいたいと考えるが、この点についても意見をいただきたい。

【土屋委員】

- ・数年前にも議論があり、「積み上げ方式」の場合は個々に積算する手間が大変なので、「率計算方式」が良いという提案もあった。今回は「積み上げ方式」もしっかりやって、工種に応じて適切な方法を選択するという考えで良いか。

【事務局木下企画専門官】

- ・業界団体において、その工種に適した方法を選択するのが良いと考えているが、委員のご意見を伺いたい。

【土屋委員】

- ・積み上げを一度やらなければ駄目だと考えている。ヘルメットや安全帯の経費を積上げたとしても、金額は非常に小さい。各地で安全対策について講演を行って

いるが、足場を設置するように推奨している。安全衛生経費の確保には、発注者側からも必要な安全対策を明らかにした上で発注するようにしていただきたい。

【尾下委員】

- ・このWGの目的は、現場から事故をなくすることであり、安全対策が出来ていない会社に対してどういう手当をするのかが始まりであった。そのためには費用を適正に見なければいけないということだった。当該現場での安全対策は何をやるのか確認表で明確化しましょうということ。先行2団体が提案している「率計算方式」はたしかに合理的な方法であるが、安全対策が出来ていない会社に対しては、個々の工事でしっかり積み上げることにより、実施する安全対策が明確になるので、まずは「積み上げ方式」を基本とすべきと考える。

【事務局木下企画専門官】

- ・ご指摘のとおり、個々の工事において積み上げることが最も有効であると考えているが、対策によっては非常に少額なものがあることや、工事毎の積み上げは事務作業が煩雑になる等のデメリットも聞いている。両者のバランスに配慮しながら、引き続き検討したい。

【蟹澤座長】

- ・最終な手段として率方式もあるが、あるべき対策をしっかり工事毎に積み上げることが必要だと考える。物理的な対策だけではなく、管理や点検などの経費なども見える化することということだと思う。次回示される予定の案をもとに、議論を深めたい。
- ・職種・工種で実態に差があり難しい面もあると思うが、まずは積み上げ方式を基本とし、その上で率計算の可能性を検討するという方針で検討を進めたい。

【蟹澤座長】

- ・議題3について事務局より説明願いたい。

【事務局木下企画専門官】

- ・戦略的広報の取組として、厚労省と連携して作成したリーフレットについて説明。

【土屋委員】

- ・安全衛生経費の問題については、元下間での認識共有だけでは不十分で、発注者が安全衛生経費の必要性をしっかりと認識する必要がある。全国建設業労働災害防止大会での国交省の講演では、そのことを伝えてほしい。

【蟹澤座長】

- ・基本問題小委員会でも発注者に対してもしっかりと示すとなっているので、安全衛生経費についても土屋委員のご指摘とおりである。

【細谷委員】

- ・発注者に対する広報資料は、第5回WGで提案されるのか。

【事務局木下企画専門官】

- ・その予定である。

【池田委員】

- ・当団体の会員の大部分は地域工務店で、日々忙しい個人の工務店が多くリスクアセスメントの情報に欠けるところがあるが、安全は非常に重要なことなので確認表を利用して認知を広げていくことが重要と感じた。これを利用して会員に周知して活用していきたい。

ほぼ全ての発注者は個人であり、そのような方々の理解が非常に重要である。個人の発注者は見積費用の低い会社を選ぶ事もあるため、安全対策を真面目に実施している会社を選ばれない可能性がある。個人の発注者に対する広報もしっかり検討してほしい。

【藤巻委員】

- ・小規模な下請企業は負担が大きく業界離れにつながることを懸念している。安全衛生経費は重要なので、当方でも検討し良い案があれば提案していきたい。また、当社の発注者は、7割が民間企業なので、民間発注者の理解を深める取り組みをお願いしたい。

【蟹澤座長】

- ・発注者から現場で働く方々まで、しっかり伝わる取組をお願いしたいということだと思う。
- ・最近不幸な事故が続いていることや、インボイス、2024年からの働き方改革などの影響で、一般のマスコミからも建設業の担い手問題や働き方改革、安全の問題に関して関心が寄せられている。注目されていることから、しっかり対策を実施していることを情報発信出来ると思う。安全は全ての基本であることから、本日頂いた委員からのご意見を踏まえて、事務局でしっかり検討してほしい。

【事務局宮沢課長】

- ・様々なご意見を頂き感謝。安全は全ての基本であるので、安全衛生経費が見える化していく一方で、作業の負担も軽減していくなど、頂いたご意見を踏まえて検討を進めていくので、引き続き協力をお願いする。